

外国語ワーキンググループにおける検討事項について

中教審・教育課程企画特別部会「論点整理」(平成 27 年8月 26 日)、「英語教育の在り方に関する有識者会議」(平成 26 年9月 26 日)等を踏まえて、主に次のような事項について検討いただく。

1. 小・中・高等学校を通じて育成すべき外国語教育における資質・能力について

①育成すべき資質・能力の可視化

- i)何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)
- ii)知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力)
- iii)どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)

②小・中・高等学校を通じて①児童生徒の学びを円滑に接続させるため、小・中・高等学校を通した一貫した目標・内容、学習過程の在り方について、発達段階に応じてどのように充実を図るか

③外国語教育として、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った学びを推進する視点も踏まえ、どのように充実を図るか

2. 外国語教育の改善について

言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、身近な話題から幅広い話題についての理解や表現、情報・意見交換等ができるコミュニケーション能力を養うため、目標、指導内容、学習・指導方法、学習過程、学習評価等の在り方について、主に次のような事項について検討。

- 小学校・中学校・高等学校を通じて一貫した教育目標(指標形式の目標を含む)・指導内容、学習過程等の在り方
 - ・学校が設定する目標等との整理
 - ・指導する語彙数、文法事項
 - ・CEFRとの関係整理 等

- 言語能力を向上させるための国語教育と外国語教育との連携
 - ・目標・指導内容等全体に関して
 - ・言語の仕組み(音声、文字、語句、文構造、表記の仕方等)
 - ・言語活動等

* 言語能力の向上に関する特別チームにおける検討事項を参照

- 小学校の活動型、教科型
 - ・論点整理で示された指摘(目標・内容とともに、短時間学習の活用など)
- 小中連携
 - ・小学校高学年から中学校への学びの接続の考え方、学習・指導方法等
- 中学校、高等学校の改善の方向性
 - ・中学校: 互いの考えや気持ちを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業
 - ・授業は英語で行うことを基本とする
 - ・高等学校: 科目の見直し(4技能総合型(必履修科目を含む)、発信能力育成型(「発表、討論・議論、交渉」などの統合型言語活動が中心)の科目の在り方)
- 中・高連携
 - ・中学校から高等学校への学びの接続の考え方、学習・指導方法等
- 高等学校の科目等の見直し
 - ・4技能総合型(必履修科目を含む)、発信能力育成型(「発表、討論・議論、交渉」などの統合型言語活動が中心)の科目の在り方(再掲)
 - ・専門教科「英語」の在り方
- 小・中・高等学校の学習評価の在り方
 - ・評価の三つの観点
 - ・各学校が設定する学習到達目標(CAN-DO形式)との関係
 - ・多様な評価方法
 - (パフォーマンス評価、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価等) 等
 - ・小学校高学年の教科としての評価
- 英語以外の外国語の扱い

3. 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策について

- ① 外国語教育を充実するための「カリキュラム・マネジメント」の確立
- ② 教員の英語力・指導力の向上や外国語指導助手等の外部人材の活用などの条件整備
 - ・中教審・教員養成部会等の議論
 - ・教員養成・研修
 - ・教科書・教材 等

小・中・高を通して外国語教育において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

平成28年1月12日現在

	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)</p>	<p>学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>外国語活動 小学校</p>	<p>外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること 外国語を聞いたり、話したりすること 外国語への慣れ親しみ</p>	<p>簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力</p>	<p>外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 言語や文化に対する関心 など</p>
<p>外国語 小学校</p>	<p>聞くことに関する知識・技能 話すことに関する知識・技能 外国語を読んだり、書いたりすること 言葉の仕組みへの気付き（音、単語、語順など）</p>	<p>馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力</p>	<p>他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度 言語や文化に対する関心 など</p>
<p>外国語 中学校</p>	<p>聞くことに関する知識・技能 話すことに関する知識・技能 読むことに関する知識・技能 書くことに関する知識・技能 言語の働き、役割について理解 など</p>	<p>○ 具体的に身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力 ○ 聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力</p>	<p>他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度 言語や文化に対する関心 など</p>
<p>外国語 高等学校</p>	<p>聞くことに関する知識・技能 話すことに関する知識・技能 読むことに関する知識・技能 書くことに関する知識・技能 言語の働き、役割について理解 など</p>	<p>○ 日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力 ○ 聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力</p>	<p>他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度 言語や文化に対する関心 など</p>



資質・能力を育成する学びのプロセスの要素イメージ

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

目的の設定・理解

目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見直し

目的達成のための言語活動(技能統合型)

言語・内容の両面におけるまとめと振り返り

次のコミュニケーションにおける目的の設定・活動へ

※必ずしも一方通行の流れではない

意見や考えの形成

聞くこと 読むこと 話すこと 書くこと

語彙・表現・文法等

プロセスの中で働く思考・判断・表現等のうち、特に重視すべきものの例

複数の技能を統合した活動

- 目的の理解
- 目的に応じた情報の抽出
- 関連する知識や情報の検索
- 課題について得られた知識や情報を整理・統合
- 知識や情報を利用して自分の考えを形成・整理
- 意見や考えの吟味と再構築
- 多様な見方や考え方に基づいた次の思考プロセスへ

目的の明確化と必要な情報の把握

目的達成に必要な情報の選択

様々な見方や考え方の共通点・相違点等の評価・選択・決定

自分の考えや主張を適切に伝えることの意味決定

情報間の関係性を構成

目的に関する論点・解決策の整理

流暢さと正確さのバランス

インタラクティブによる表現

目的に応じて伝え合うことを通じた表現の深化・多様化

「聞くこと」及び「読むこと」を活用した「話すこと」及び「書くこと」による言語活動(図表等による表現も含む)

技能統合型の活動を通じた英語による思考力・判断力・表現力を育成

※2技能以上を効果的に組み合わせて統合的に活用(例) (聞いたり読んだりして得た情報について、その概要や要点を的確に把握し、自分の意見や考えなどの共通点や相違点などを示しながら論理的・批判的に話したり書いたりして表現する力、与えられた話題について、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力、相手からの問いかけに応じて自身の経験や考えを適切に述べる力) など

高等学校地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおける検討事項

1. 高等学校の地理歴史科、公民科に置く新科目の内容の検討について

(1) 「歴史総合（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
- ② 歴史の転換等を捉えた学習の在り方
 - ・歴史の転換期の軸
 - ・学習対象となる時代
- ③ 日本と世界の動きの関連付け

(2) 「地理総合（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
- ② 地理教育に求められる今日的要請への対応

(3) 「公共（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
 - ・様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論
- ② 公民教育に求められる今日的課題への対応

2. 高等学校地理歴史科、公民科に置く科目間の関係の整理（高等学校における各科目の標準単位数を含む）について

(1) 「歴史総合」と「地理総合」の地理歴史科としてのまとめ

- (2) 新設する科目（「歴史総合」「地理総合」「公共」）について、高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計（高大接続の観点を含む）

3. 小・中学校社会科等と高等学校地理歴史科、公民科との内容の系統性について

- (1) 小学校社会科・中学校社会科の各分野（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）と高等学校の関係教科・科目の内容の系統性

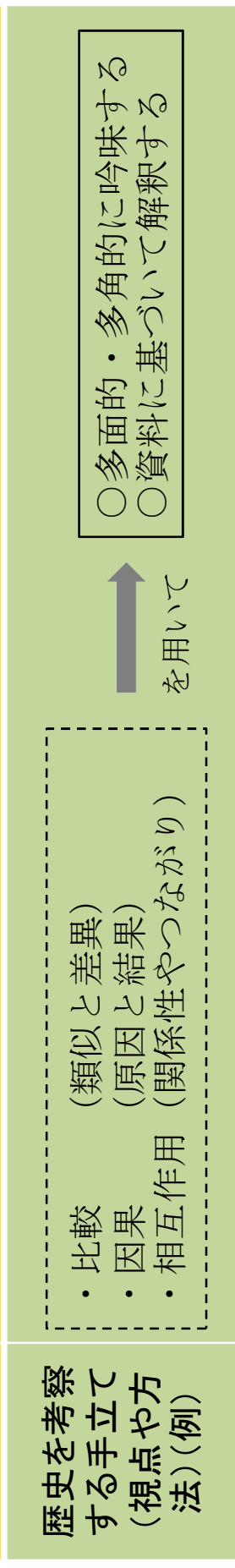
4. その他

- (1) 適切な指導がなされるための要件（周知・広報、研修等）

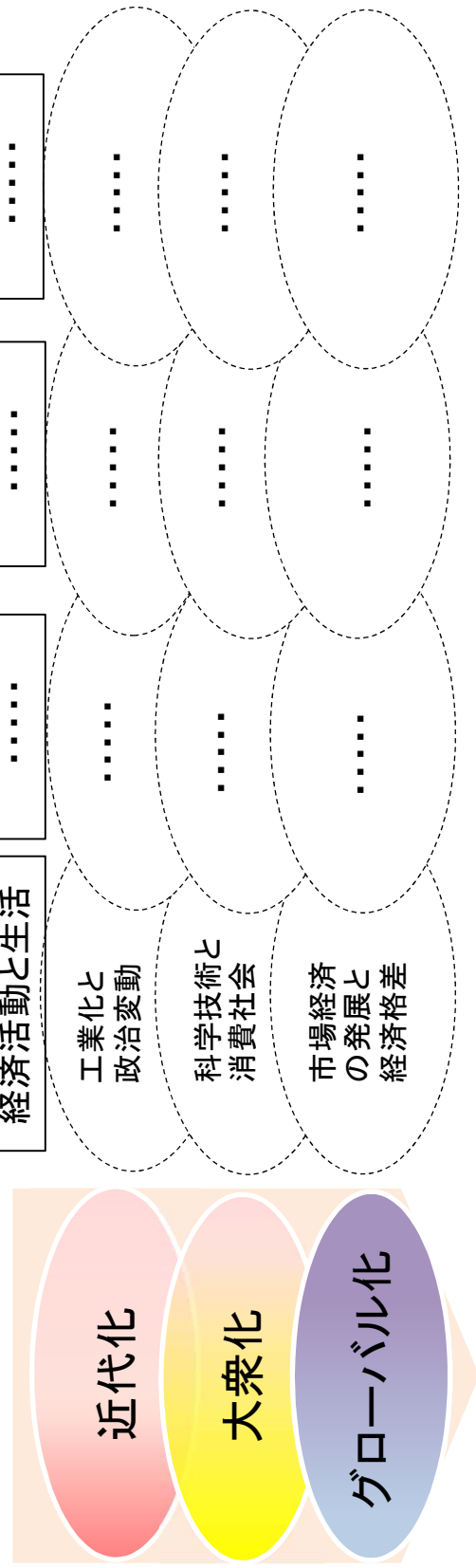
「歴史総合(仮称)」の方向性・特色・構成イメージ(たたき台案)

「歴史総合(仮称)」では次の資質・能力を養う。

- 歴史を考察する手立て(視点や方法)を用いて、現代の諸課題の歴史的背景を追究する力
- 諸資料を適切に活用する技能
- 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質



構成イメージ



基礎となる問いと獲得する概念に着目した「歴史総合(仮称)」の構成イメージ(たたき台案)

平成28年3月4日
 教育課程部 社会・地理歴史・公民
 ワーキンググループ
 資料7

諸資料を活用しながら、歴史を考察する手
 立てを用いて追究し、「歴史の学び方」を
 身に付ける。



- 〈科目構成の考え方〉
- ・現代的な諸課題のおこりやその推移に関わる事柄について
 - ・近現代の歴史の大きな転換(「～化」)に関わる事柄を中心に
 - ・自国のこととグローバルなことが影響し合ったりつながったりする歴史の諸相に着目して
 - ・「基礎となる問い」やそれに基づく具体的な問いの設定と追究を通して
 - ・焦点となる問いやそれによって獲得される概念に留意して

	経済に関する 現代的な諸課題の背景	政治に関する 現代的な諸課題の背景	国際関係に関する 現代的な諸課題の背景	社会・文化に関する 現代的な諸課題の背景
歴史の転換を捉える視点	基礎となる問いの例 欧米と日本の工業化の進展にはどのような違いがあるか。その違いは世界的情勢にどのような影響を及ぼしたか。 産業革命 資本主義 社会主義	基礎となる問いの例 政治上の革命は、経済や社会のどのような変化と関係しているか？	基礎となる問いの例 欧米諸国や日本が海外に向かった理由は、以前とどのように違っていたか？	基礎となる問いの例 人々の権利をめぐる運動は、社会にどのような影響を与えたか？
近代化	獲得する概念の例	獲得する概念の例	獲得する概念の例	獲得する概念の例	獲得する概念の例
大衆化	獲得する概念の例	獲得する概念の例	獲得する概念の例	獲得する概念の例	獲得する概念の例
グローバル化	獲得する概念の例	獲得する概念の例	獲得する概念の例	獲得する概念の例	獲得する概念の例

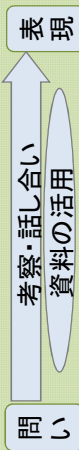
- * 学習課題によって、取り上げる時期や地域を広げて設定するなどの工夫が考えられる。
- * 「近代化」「大衆化」「グローバル化」は、歴史の転換を捉える視点であって、時期の区分ではない。
- * 歴史の転換への関わりの深さ

 深い ← → 浅い

高等学校学習指導要領における歴史科目の改訂の方向性として考えられる構成(たたき台案)

新必修科目「歴史総合(仮称)」

○現代的な諸課題の背景にある歴史を、グローバル化につながる近現代の歴史の転換に着目して追究する。
 ◎単元の基軸となる本質的で大きな問いを設け、諸資料を適切に活用しながら、比較や因果関係を追究するなど歴史的な見方や考え方をを用いて考察する「歴史の学び方」を身に付ける。



◎「歴史総合(仮称)」で習得した「歴史の学び方」を活用する

現行科目「世界史B」

- (1) 扉
- (2) 形成
- (3) 交流と再編
- (4) 結合と変容
- (5) 地球世界の到来

現行科目「日本史B」

- (1) 原始・古代
- (2) 中世
- (3) 近世
- (4) 近代
- (5) 両大戦期
- (6) 現代

新選択科目(案) (世界史に関する探究科目)

- 諸地域世界の歴史の大きな枠組と展開を広く深く考察する。
- 前近代では、
 - ・「歴史総合(仮称)」で育んだ技能を生かして、諸資料を活用して歴史を考察し表現する。
 - ・近現代につながる諸地域世界の文化の多様性や複合性を時間軸(タテ)と空間軸(ヨコ)の変化に着目して理解する。
- 近現代では、
 - ・諸地域世界の歴史の相互依存性や多源性に着目して、諸資料を活用し、広い視野から考察し表現する学習を通して、現代につながる諸課題を多面的・多角的、歴史的に追究、探究する。
 - ・「歴史総合(仮称)」で獲得した概念に加え、さらに考察を深めるために必要な歴史的な概念を習得する。

新選択科目(案) (日本史に関する探究科目)

- 我が国の歴史の展開を広く深く総合的に考察する。
- 前近代では、
 - ・「歴史総合(仮称)」で育んだ技能をより一層高め、諸資料を活用して歴史を考察し表現する。
 - ・各時代における重要な概念を習得するとともに、現代につながる我が国の伝統や文化の特色を理解する。
- 近現代では、
 - ・我が国の歴史にかかわる様々な分野から具体的な事柄を取り上げ、自ら課題を設定し多様な資料を活用して歴史を解釈するなど、学習を重視して、現代につながる諸課題を多面的・多角的、歴史的に追究、探究する。
 - ・「歴史総合(仮称)」で獲得した概念に加え、前近代の学習で育成した資料に基づいて歴史を考察し表現する力を活用して、さらに考察を深めるために必要な歴史的な概念を習得する。

※ 歴史用語の在り方について、研究者と教員との対話を通じて、歴史を考察する手立てに着目するとして構造化を図る。

新選択科目(案)(世界史
 に関わる探究科目)

歴史総合(仮称)

新選択科目(案)(日本史
 に関わる探究科目)

ねらい	17世紀を前後して始まったイギリスの社会構造の変革が、大西洋沿岸地域相互のつながりをもたらしたことをつかみ、それが世界で最初の産業革命を始める前提条件を築いたことを追究する	欧米諸国と日本の工業化の進展を比較して、共通点と相違点を整理し、当時の各国内や世界の国家・諸地域間の関係にどんな影響を与えたかを考察する	日本の急速な産業革命の進展について自ら問いを設け、変革前の産業段階を踏まえ、資本の蓄積の過程、国内外の諸状況を背景とした政策など、総合的な視点から追究する
問い	「16世紀末から経済危機に陥っていたイギリスが、なぜ世界初の工業化を達成したのか」	「欧米と日本の工業化の進展にはどのような違いがあるか。その違いは世界の情勢にどのような影響を及ぼしたか」	「欧米で長期をかけて進行了た産業革命を、なぜ日本は短期で実現させることができたのか」
獲得する概念	農業革命、商業革命...等	資本主義、帝国主義、植民地、富国強兵...等	豪農商、殖産興業、寄生地主制...等
授業展開 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> ○物価動向と洗礼・埋葬者数の変化を資料から読み取り、当時のイギリスの状況を理解する ○危機の脱出方法の説明として有効な資料を選択して、その有効性を話し合う ○世界で最初の産業革命を始めることにつながった前提条件を説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ○産業革命の時期や経緯、主体となる人々などについて、資料から欧米と日本の相違点を読み取る ○欧米諸国の工業化と日本の近代化に向かう政治変革との関係性を話し合う ○工業化の進展の差異が、世界の国や地域間の関係に及ぼした影響について説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ○マニュファクチュアの進展や在郷資本の成長など、前提となる19世紀前期の国内産業の状況を資料から読み取る ○技術用語の日本語化、模範工場建設など、日本の技術導入の特徴とその意義について話し合う ○19世紀末の国内、対外的状況と経済政策、政商や在郷資本家などの動向を総合して説明する

* 上記は、高等学校歴史系新科目を想定して作成した授業イメージ(例)の1つである。生徒の実態に即して、さらに多様な授業イメージが考えられる。

現行地理A科目

地理A

(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察

- ア 地球儀や地図からとらえる現代世界
- イ 世界の生活・文化の多様性
- ウ 地球的課題の地理的考察

(2) 生活圏の諸課題の地理的考察

- ア 日常生活と結び付いた地図
- イ 自然環境と防災
- ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査

○地理的な技能

- 「実践的な社会的スキルとしての GIS 活用」
- 地理的知識と地理的理解
- 「地球規模（グローバル）の自然システム、社会・経済システムの知識と理解」

持続可能な社会づくりに求められる地理科目

- 地理的な見方や考え方
- 「空間概念を捉える力」
- 態度
- 「地域、国家的及び国際的な課題解決を模索する献身的努力」

（「ルツェルン宣言における『持続可能な開発を実行する地理的能力』による」）

<参考>

- ・ 中学校地理的分野において充実した地誌学習により獲得した知識等を活用し、国内外の諸課題等を主題的に扱う。
- ・ 本科目履修後の地理歴史科の科目や他教科において活用できる，GISをはじめとする地理的な技能や，世界のグローバル化，持続可能な社会づくりといった考え方を身に付けさせる。

資質・能力

「地理総合」（仮称）

(1) 地図と地理情報システムの活用

⇒以降の地理学習等の基盤となるよう，地理を学ぶ意義を確認するとともに，地図や地理情報システム（GIS）などに関わる汎用的な地理的技術を身に付ける。

(2) 国際理解と国際協力

ア 多様な生活・文化と国際理解

⇒自然と社会・経済システムの調和を図った，世界の多様な性のある生活・文化について理解する。

イ 地球的な諸課題と国際協力

⇒地球規模の諸課題とその解決に向けた国際協力の在り方について考察する。

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア 自然環境と災害対応

⇒日本国内や地域の自然環境と自然災害との関わりや，そこでの防災対策について考察する。

イ 生活圏の調査と持続可能な社会づくり

⇒生活圏の課題を，観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて捉え，持続可能な社会づくりのための改善，解決策を探究する。

新必修修科目(案)

GIS

グローバル化

防災

ESD

「地理総合（仮称）」において重視する思考力等と授業イメージ（たたき台案）

項目構成（案）

「地理総合」（仮称）

(1) 地図と地理情報
システムの活用

(2) 国際理解と国際協力

ア生活・文化の多様性
と国際理解

イ地球的な諸課題と
国際協力

(3) 防災と持続可能な
社会の構築

ア自然環境と災害対応

イ生活圏の調査と
持続可能な社会づくり

重視する思考力, 判断力, 表現力等

○ 地図上に表された事象と実際のできごとを関連付けて考察する力

○ 考察したことを、目的に応じて地図等にまとめ、効果的に説明する力

○ 自然環境等に対応した世界の多様な生活・文化の意味や意義を理解し、自他の文化を尊重しつつ考察する力

○ 考察したことを、資料を踏まえて説明する力

○ 地球規模で見られる諸課題（環境、資源・エネルギー、人口、食料、住居・都市、民族・領土等）について多面的・多角的に考察する力

○ 考察したことを、根拠を明確にして議論する力

○ 国内各地の自然環境とそこで現れる災害の傾向性を関連付けて課題を把握し、多面的・多角的に考察する力

○ 考察したことを、資料にまとめて説明する力

○ 生活圏に見られる課題について、その背景や要因等の分析に基づき、様々な解決策を吟味し、構想する力

○ 構想したことを、実現可能性を指標に議論する力

「地理的な見方や考え方」を用いた授業設計

問いを重視した授業展開

問い

と授業展開のイメージ

(⇒詳細は、別紙資料参照)

⑦ なぜ出生率と、人口増加率は一致しないのだろうか

出生率の高い地域が必ずしも人口増加率が高いわけではないことを、GISを用いて階級区分図の重ね合わせを行い、その地域的な要因を考察する。〔他に、統計資料の分析、主題図の作成などの主題を設定〕

④ どうしてアンデスでは、湖上で生活する人々がいるのだろうか

アンデス高地の地形や気候等の自然環境の特徴から、湖上で生活する理由を見出し、生活の多様性とその必然性について考察させ、異文化理解を図る。〔他に、衣・食や宗教などの主題〕

⑦ なぜウガンダでは、生産性が劣る陸稲が生産されているのだろうか

食料難に悩むウガンダに対して、どのような手段で食料増産を促すための支援が可能なのか。支援で直面した課題とその要因を探り、国際協力の在り方について考察する。〔他に、地球温暖化対策などの主題〕

⑤ ハザードマップを読んで、私たちの町の防災について考えよう

複数のハザードマップから地域から地域の自然環境の特徴を読み取り、その情報を比較、関連付けて、各地域で想定される災害を考え、地域ならではの対応策を考察する。〔他に、災害復旧・復興、都市計画などの主題〕

⑧ フードデザート解消のため、どのようなまちづくりを目指すべきか

中心業務地区の衰退等を背景に、今後どのようなまちづくりを行うべきか、地域調査により収集した諸資料を分析し、分析結果を踏まえた生活圏の在るべき姿を構想する。〔他に、環境対策などの主題〕

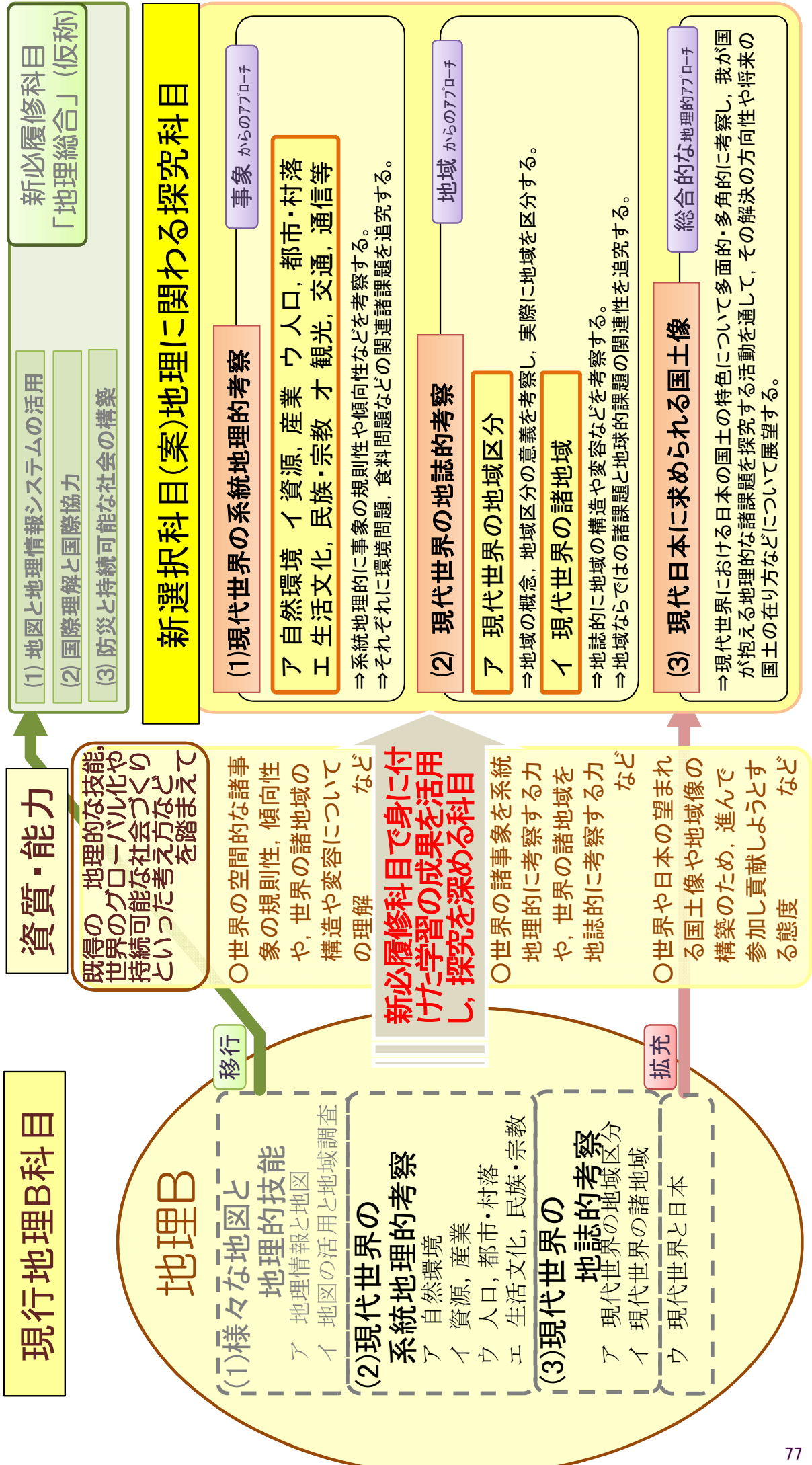
<補足；「学習の系統性, 段階性」>

- ・ (1)の学習によって培った地理的な技能を、後の(2), (3)の学習や他教科・科目等の学習において実践的に活用する。
- ・ (2)と(3)のそれぞれ「ア」で把握, 考察したことを基に, 「イ」で議論, 構想 (展望) する。
- ・ (2)で学んだ各地の諸課題への対応策を, (3)の生活圏の諸課題解決の構想に生かす。(Think Globally, Act Locally)

高等学校学習指導要領における地理科目の改訂の方向性として考えられる構成（たたき台案）

構成原理

「地理総合（仮称）」は、主題を基に課題解決的な学習により、社会で生きて働いていく実践力の育成の場として、「新選択科目」は、地理総合で習得した地理的な技能、見方や考え方を基に、世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で、現代日本に求められる国土像の在り方について展望することにより、高等教育での学びにも繋がる本格的な地理的探究の場として構成する。



地理歴史科で育成すべき資質・能力の整理（たたき台案）

	個別の知識や技能 （何を知っているか、 何ができるか）	思考力・判断力・表現力等 （知っていること、できることを どう使うか）	情意・態度等に関わるもの （どのように社会、世界と関わり よりよい人生を送るか）
地理総合 （仮称）	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の自然システム、社会・経済システムの理解 地図や地理情報システムなどの地理的な技能 	<ul style="list-style-type: none"> 位置や分布などの空間概念を、地理的な見方や考え方をを用いて考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会づくりに向け、地球的課題や地域的課題の解決を模索する態度など
新選択科目 （案）地理に関 わる探究科目	<ul style="list-style-type: none"> 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容についての理解 地図や地理情報システムなどを実践的に活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸事象を系統地理的に考察し表現する力や、世界の諸地域を地誌的に考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 世界や日本の望まれる国土像や地域像の構築のため、進んで参加し貢献しようとする態度など
歴史総合 （仮称）	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の考察に関わる概念の理解 歴史に関わる諸資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 比較や因果などの歴史的な見方や考え方をを用いて考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚など
新選択科目 （案）日本史 に関わる探究 科目	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開の総合的な考察を通じた理解 多様な資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史にかかわる様々な分野に着目し自ら課題を設定して多面的・多角的に考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚など
新選択科目 （案）世界史 に関わる探究科 目	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開の考察に関わる概念の理解 諸資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の歴史の多様性や複合性、相互依存性や多元性に着目して多面的・多角的に考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚など

「公共（仮称）」の方向性として考えられる構成①（たたき台案）

新必修科目(案)

「公共(仮称)」

(1)「公共」の扉

「平和で民主的な国家及び社会の形成者」を育成

ア 公共的な空間を作る私たち

⇒今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、

・様々な立場や文化等を背景にして社会が成立していること

・①「自分らしい生き方」を問い、自らの体験や悩みを振り返ることを通して自らを成長させること、

②人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うこと、

両者によってよりよい集団、社会(公共的な空間)を作り出していくこと(勤労観・職業観の育成を含む)について学ぶ。

倫理的主体となる私たち

イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方

⇒社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる、

①「行為の結果における効用として、個人の幸福とともに、社会全体の幸福を重視する考え方」、

②「(行為の結果よりも、)行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」、

について理解させる。その際、

・人が追求するものは経済的価値に限られるものではなく、多義的であること

・両者ともに活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えることが重要であること

・行為の結果における効用について、多面的・多角的に考えていくことが重要であること

・行為の動機について、個々の動機に留まらず、それらを継続的に考えていくことにより、人間としての在り方生き方について考えていくことが重要であること

などを取り上げる。

※ 指導のねらいを明確にした上で、囚人のジレンマ、共有地の悲劇、最後通牒ゲーム等の思考実験や、環境保護、環境保護、生命倫理等について概念的に考える学習活動を取り入れること。その際、(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」で取り扱う課題と連動した課題を取り上げるようにする。

ウ 公共的な空間における基本的原理

⇒個人と社会との関わりにおいて、社会における基本的な原理に焦点を置いて考える。具体的には、個人の尊重を前提に、協働関係の共時性と通時性に関する比較衡量などを通して、人間の尊厳と平等、社会の安定性をともに成り立たせることが、公共的な空間の中で協働するために必要であることについて理解させる。その際、

・民主主義、自由・権利と責任・義務、相互承認・・・

などを取り上げる。

公民科目新設の方向性として考えられる構成②（たたき台案）

「公共」（仮称）

(1)「公共」の扉

別紙

(2)自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

⇒小・中学校社会で習得した知識等を基盤に、社会的事象の見方や考え方を働かせながら、(1)「公共」の扉で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用して現実の社会的事象について考察、追究する。
・社会を構成する主体となるために、協働の必要なる理由、協働を可能とする条件、協働を阻害する要因などについて考察を深める。その際、自立した主体として生きるために必要な知識を身に付ける。

ア 政治的主体となる私たち

⇒協働により目指すべきもの（議論により、意見や信念、利害の対立状況を調整し、合意形成することを通して、よりよい社会を築くこと）

<題材の例>

政治参加、世論の形成、
国際貢献…

財政と税、社会保障、市場経済の機能と限界、
雇用、労働問題（労働関係法制を含む）…

契約、メディア、情報リテラシー、男女共同参画…

（ア～エの主体のうち二つ、あるいは三つの主体が複合的に関連し合う題材を取り扱うことが考えられる）

司法参加…

契約、消費者の権利や責任…

情報モラル…

⇒協働により目指すべきもの（公正な手続きに則り比較衡量を行うことを通して、個人や社会の紛争を調停・解決すること）

ウ 法的主体となる私たち

<考えられる学習活動の例> 討論、ディベート、模擬選挙、模擬投票、模擬裁判、外部の専門家の講演、新聞を題材にした学習、体験活動、インターンシップの準備と振り返り…

イ 経済的主体となる私たち

⇒協働により目指すべきもの（公正なルールを作ってその下で経済活動を行うことを通して、個人の尊重とより活発な経済活動をもに成り立たせること。またその補完を政府等が担っていること）

職業選択、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり…

エ 様々な情報を発信・受信する知的主体となる私たち

⇒協働により目指すべきもの（情報に関する責任や、利便性と安全性を多面的・多角的に考えていくことを通して、望ましい情報社会を築くこと）

※ 様々な主体となる個人を支える家族・家庭や地域等にあるコミュニティ

⇒世代間協力・交流、自助・共助・公助等による社会的基盤の強化

家族・家庭、消費者等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、情報リテラシーを扱う情報科、個人の安全指導を行う保健体育科と連携

公民科目新設の方向性として考えられる構成③（たたき台案）

「公共」（仮称）

(1)「公共」の扉

別紙

(2)自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

別紙

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

⇒ (1)「公共」の扉で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用するとともに、(2)「自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために」で行った課題追究的な学習で扱った現実社会の諸課題への関心を一層高め、個人を起点として、自立、協働の観点から、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえつつ多様性を尊重し、持続可能な地域、国家、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となることについて探究を行う。

ア 地域の創造への主体的参画

イ よりよい社会の構築への主体的参画

ウ 我が国と国際社会への主体的参画

<題材の例> 公共的な場づくりや安全を旨とした地域の活性化、受益と負担の均衡や世代間の調和がとれた社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和・・・などについて探究

家族・家庭、消費者等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、情報リテラシーを扱う情報科、個人の安全指導を行う保健体育科と連携

<留意点> (1)「公共」の扉、(2)「自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために」の学習を踏まえて、科目のまとめとして(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」における課題を探究する学習が行われることに留意し、(1)、(2)においては、(3)で課題を探究する学習が効果的に行われるよう課題意識の醸成に努めることが求められる。

<「公共（仮称）」において考えられる学習活動の例> 討論、ディベート、模擬選挙、模擬投票、模擬裁判、外部の専門家の講演、新聞を題材にした学習、体験活動、インターンシップの準備と振り返り・・・

<「公共（仮称）」の学習において関係する専門家・機関> 選挙管理委員会、企業、経済団体、起業者、弁護士、報道機関、消費者センター、留学生、NPO、NGO・・・

※ 「公共（仮称）」においては、キャリア教育の観点から、経済、法、情報発信などに対して主体的に参画する力を育む中核的機能を担うことが求められる。

新必修科目「公共」(仮称)の構成

- 現代社会の課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得する。
- 立場や文化によって意見の異なる様々な課題について、その背景にある考え方を踏まえてよりよい解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力を養う。
- 持続可能な社会づくりの主体となるために、様々な課題の発見・解決に向けた探究を行い、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」として必要な資質・能力を養う。

新選択科目 「倫理」(仮称)

自立して思索を行うとともに、他者と共に生きる主体を育む「倫理」

※ 思想的知識の習得に終始しないようにする。

新選択科目 「政治・経済」 (仮称)

国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」

※ 制度・仕組みの知識の習得に終始しないようにする。

公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を育み、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める学習を充実

※ 現行の選択必修科目「現代社会」同様に1科目でもって公民科の教科目標を達成することのできる新必修科目「公共」(仮称)を設置することとなっている。この科目は、「現代社会」における三つの大項目相互の関係や学習内容において共通する点が多く、その発展と捉えることもできることから、「現代社会」については科目を設置しないことも含め検討する。

＜科目構成の考え方＞

・新必修科目「公共（仮称）」で習得した個人が判断するための手掛かりとなる考え方を基盤とし、古今東西の幅広い知的蓄積を通してより深く思索するための概念や理論を理解し、それらを活用して現代の倫理的諸課題を探究し、人間としての在り方生き方をより深く自覚し、人格の完成に向けて自己の生き方の確立を図る主体を育む「倫理」に発展させる。そのために、思想史の断片的な知識の暗記中心から、「倫理的価値の理解」を基にした「考える倫理」に転換する。

現行公民科目

倫理

(1) 現代に生きる
自己の課題

(2) 人間としての
在り方生き方

ア 人間としての自覚
イ 国際社会に生きる
日本人としての自覚

(3) 現代と倫理

ア 現代に生きる
人間としての倫理
イ 現代の諸課題と倫理

資質・能力

○ 現代社会に生きる人間としての在り方生き方についてのより深い自覚

新必修科目で育まれた資質・能力を活用し、思索を深める科目

○ 現代の諸課題を捉え、より深く思索するための概念や理論の理解

○ 課題を解決するために概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明する力

拡充

(1) 「公共」の扉

(2) 自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

新必修科目
「公共」(仮称)

新選択科目
「倫理」(仮称)

新選択科目(案)

(1) 自己の課題と人間としての在り方生き方

⇒ 自己の生き方を見つめ直し、自らの悩みや体験を振り返り、「公共(仮称)」で取り扱った社会との関わりに加えて、自己の課題を他者、集団、生命や自然などとの関わりも視点として捉え、多面的・多角的に考察し、思索を深める。
(考察の対象) 人間存在。愛、正義、幸福などの倫理的な価値

(2) 現代の諸課題と倫理

⇒ 現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深め、論理的思考力を身に付け、自己の生き方の確立を図るために探究する。
(例) 生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉、科学・技術、動物、経済社会などにおける倫理的課題

探究

【学習活動の例】

- ・我が国を含む古今東西の先哲たちの基本的な考え方を手掛かりとするため、先哲の原典を読む

- ・哲学に関する対話的手法等も活用

＜科目構成の考え方＞

・小・中学校社会で身に付けた社会的事象の見方や考え方を基盤に、新必修科目で習得した選択・判断の基準となる概念を活用し、現代日本の政治や経済の諸課題や国際社会における日本の役割など、正解が一つに定まらない現実社会の諸課題を協働して探究し、国家・社会の形成により積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」に発展させる。

現行公民科目

政治・経済

(1)現代の政治

- ア 民主政治の基本原則と日本国憲法
- イ 現代の国際政治

(2)現代の経済

- ア 現代経済の仕組みと特質
- イ 国民経済と国際経済

(3)現代社会の諸課題

- ア 現代日本の政治や経済の諸課題
- イ 国際社会の政治や経済の諸課題

資質・能力

○国際社会において、国家・社会の形成により積極的な役割を果たそうとする意欲や態度

新必修科目で育まれた資質・能力を活用し、社会形成に向かう科目

○正解が一つに定まらない、現実社会の複雑な諸課題の解決策を探究するために必要な概念の理解

○社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に解決策を構想する力

○構想したこととの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成に向かう力

新必修科目
「公共」（仮称）

(1)「公共」の扉

(2)自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

新選択科目(案)

新選択科目
「政治・経済」（仮称）

(1) 民主政治の基本原則と現代の経済

⇒「公共（仮称）」で取り扱った法や民主政治、現代経済について、それらを構成する様々な専門領域を深く追究し、複雑な現代政治・経済の特質を捉えるとともに、その解決策を探究する。

(課題例)望ましい政治の仕組み及び主権者としての政治参加の在り方、経済活動の在り方と福祉の向上の関連、少子高齢社会と社会保障制度…

探究

【学習活動の例】

- ・複雑な現実社会の諸課題を取り扱い、協働して課題の解決策を探究する

- ・討論、ディベートなどの手法等も活用

(2) グローバル化が進む国際政治・経済

⇒現代の国際政治・経済に関わる概念や理論、複雑な国際政治・経済の特質を捉え、それを説明するとともに、その解決策を探究する。

(課題例)国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割、国際経済における日本の役割、地球環境と資源・エネルギー問題…

探究

公民科で育成すべき資質・能力の整理（たたき台案）

平成28年2月29日
 教育課程部 公民
 社会・地理歴史・公
 ワーキンググループ
 資料8

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることを どう使うか)	情意・態度等に関わるもの (どのように社会、世界と関わり よりよい人生を送るか)
公共 (仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題を捉え、考察し選択・判断していくために必要な概念的な枠組みの理解 ・様々な主体となるために必要な知識、概念や技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家・社会の形成者として必要な選択・判断を主体的に行い、他者と協働しながら様々な課題を解決していく力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参画への意欲や態度 ・現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚 など
倫理 (仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための概念や理論の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題を解決するために概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる人間としての在り方生き方についてのより深い自覚 など
政治・経済 (仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・正解が一つに定まらない、現実社会の複雑な諸課題の解決策を探究するために必要な概念の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に解決策を考察する力 ・構想したことこの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成に向かう力 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会において、国家・社会の形成により積極的な役割を果たそうとする意欲や態度 など

社会科等で育成すべき資質・能力の整理（たたき台案）

情意・態度等に関わるもの

（どのよう社会、世界と関わりよりよい人生を送るか）

- ・環境の保全や自然災害の防止、我が国の産業の発展や社会の情報化への関心、先人の業績や優れた文化遺産についての興味・関心
- ・地域社会の一員としての自覚、地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚
- * **世界の国々との関わりや我が国の政治の働きへの関心、よりよい社会を考えようとする態度等について検討**

思考力・判断力・表現力等

（知っていること、できることをどう使うか）

- ・社会的現象の見方や考え方の基礎を用いて、社会的現象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、社会への関わり方を選択・判断する力
- ・思考・判断したことを説明する力

個別の知識や技能

（何を知っているか、何ができるか）

- ・社会生活についての理解（地域や我が国の国土の地理的環境、社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化、それらと人々の生活との関連）
- ・観察、資料活用の技能（社会的現象に関する情報を「集める」「読み取る」「まとめる」技能）

- ・社会に対する関心
- ・我が国の国土や歴史に対する愛情
- ・国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を目指す態度

- ・社会的現象の見方や考え方をを用いて、社会的現象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題や問題について公正に判断したりする力
- ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力

- ・我が国の国土と歴史に対する理解
- ・国民民主権を担う公民として必要な基礎的教養
- ・資料活用の技能（社会的現象に関する様々な情報を適切に収集、選択、活用する技能）

- ・日本や世界の地理的事象に対する関心
- ・生徒が生活している土地に対する関心
- ・地域の課題を見出し、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度

- ・社会的現象の地理的な見方や考え方をを用いて、事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力
- ・地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力
- ・調査したことや思考・判断したことを地図等を用いて説明したり議論したりする力

- ・我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的な認識
- ・地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの地理的な技能

- ・歴史的事象や身近な地域の歴史への関心
- ・他民族の文化や生活などへの関心
- ・我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚
- ・国際協調の精神
- ・歴史上の人物と文化遺産を尊重する態度

- ・社会的現象の歴史的な見方や考え方をを用いて、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力
- ・歴史にみられる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力
- ・思考・判断したことについて説明したり議論したりする力

- ・我が国の歴史の大きな流れ、伝統と文化の特色の理解
- ・歴史上の人物と文化遺産の理解
- ・歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましの理解
- ・年表など歴史に関する諸資料を活用する技能
- * **世界の歴史の扱いを充実させること等を検討**

- ・現代の社会的現象に対する関心
- ・自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であること
- ・各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことが重要であること
- ・社会に見られる課題に着目し自ら考えようとする態度

- ・現代社会を捉える見方や考え方をを用いて、社会的現象を現代の社会生活と関連付けたり、現代の諸課題について公正に判断したりする力
- ・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして社会に見られる課題についての自分の考えを再構成しながら議論する力

- ・現代社会を捉える見方や考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などの理解
- ・政治や経済、国際関係に関する概念の理解
- ・統計や新聞、映像など現代の社会的現象に関する諸資料を活用する技能

* **政治参加も含め社会に参画しようとする関心、態度等について検討**

小学校
社会

中学校
社会

地理的
分野

歴史的
分野

公民的
分野

社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける検討事項

1. 社会・地理歴史・公民科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・社会・地理歴史・公民科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・特にii)に関わって、どのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むかについて
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた社会・地理歴史・公民科において育成すべき資質・能力及び内容の系統性（例えば、小・中学校における世界に関する学習の扱い、政治的教養を育むための教育の扱いなど）について
 - ・高等学校における新設科目等の具体的な内容について

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき社会・地理歴史・公民科の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき社会・地理歴史・公民科の評価の在り方について

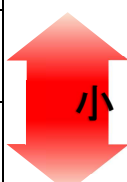


4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ（及び論点整理補足資料スライド26）参照）

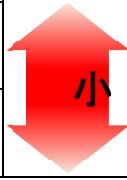
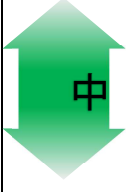

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

社会科、地理歴史科、公民科における思考力、判断力、表現力等の育成のイメージ


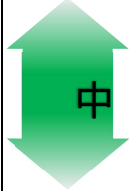

① 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力

・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味、特色や相互の関連を考察できる			




② 社会に見られる課題や問題を把握し、その解決に向けて構想する力

・ 社会に見られる複雑な課題や問題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握して、複数の立場や意見を踏まえて、解決について選択・判断できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握して、解決に向けて自分たちにできることを選択・判断できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握できる			

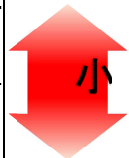
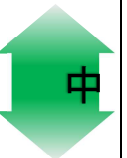

③ 考察したこと、構想したことを説明する力

・ 適切な資料・内容や表現方法を選び、社会的事象についての自分の考えを効果的に説明できる			
・ 主旨が明確になるように内容構成を考え、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			
・ 根拠や理由を明確にして、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			

④ 考察したこと、構想したことを基に議論する力

・ 合意形成を視野に入れながら、社会的事象について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論できる			
・ 他者の主張を踏まえたり取り入れたりして、社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる			
・ 他者の意見につなげたり、立場や根拠を明確にしたりして、社会的事象についての自分の考えを主張できる			

*** 参考 学習の見通しを持ち追究の結果を評価する力**

・ 追究の過程や結果を評価し、不十分な点を修正・改善することができる			
・ 追究の結果を振り返り、学んだことの成果等を自覚できる			
・ 学習問題（課題）を把握し、追究の見通しを持つことができる			

「社会科等における見方や考え方や思考力、判断力、表現力等」イメージ（たたき台案）

平成28年2月8日
 教育課程部 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ
 資料6

【高等学校地理歴史科、公民科】

思考力、判断力、表現力等

- 社会的現象の見方や考え方をを用いて、社会的現象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力
- 社会に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて構想する力
- 考察したことや構想したことを説明する力、議論する力

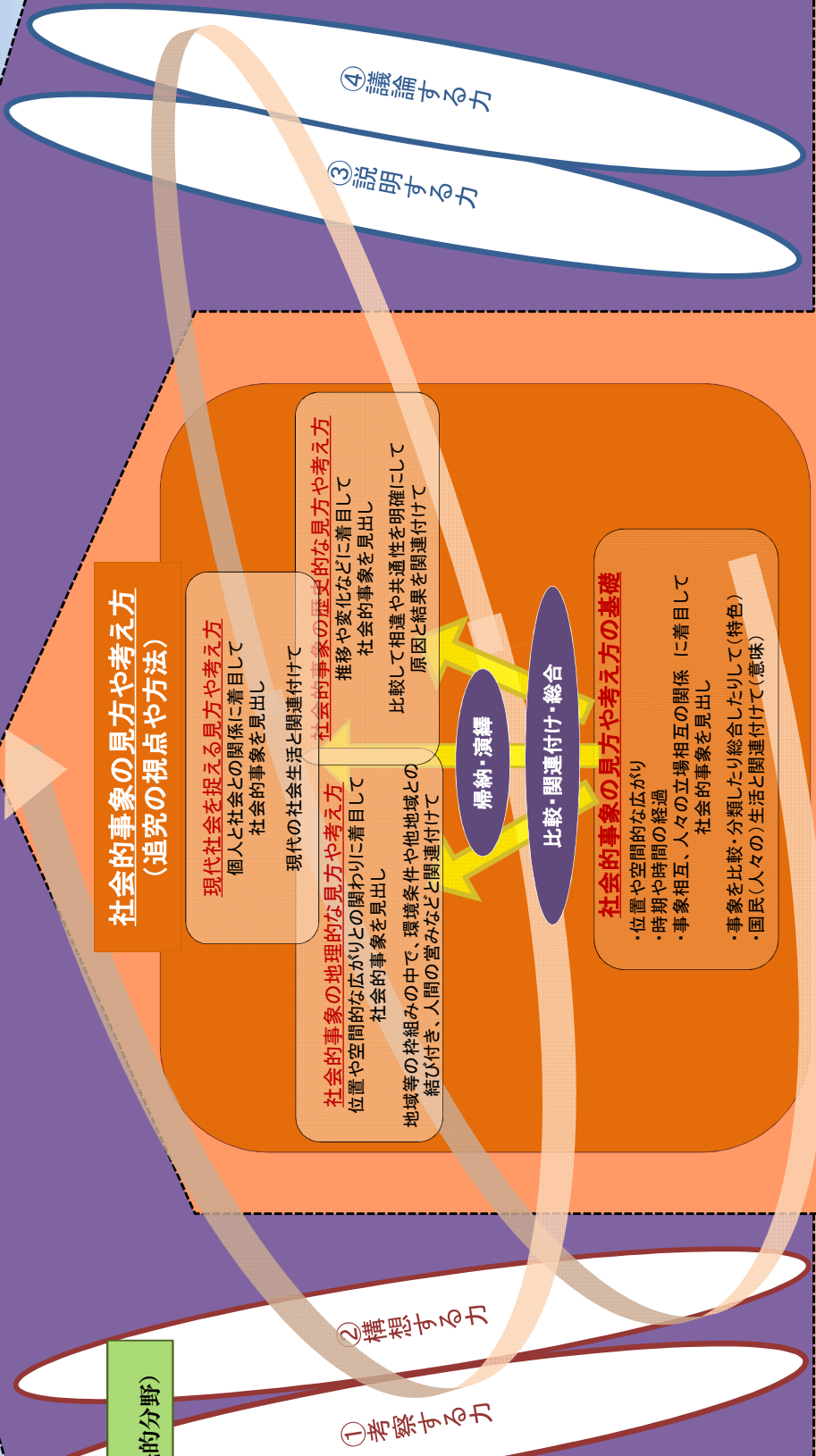
【中学校社会科】
 (地理的、歴史的、公民的分野)

【小学校社会科】
 (第3～6学年)

【小学校生活科】
 (第1、2学年)

幼児教育

社会との関わりを意識した課題解決的な学習の充実



比較する、分類する、関連付ける
 などの思考

身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
 生活に關係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ。

伝える、相互交流する、振り返る
 などの表現

感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にいかいたり、つくったりなどする。
 したり、思ったり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。

思考力、表現力の基礎の育成

考えられる追究の視点（例）

- 位置や空間的広がりの視点
地理的位置、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件
- 時期や空間的経過の視点
時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画
- 事象相互、立場相互の関係の視点
工夫、努力、願い、変化、つながり、関わり、協力、計画、対策・事業、役割、影響、連携、影響

小学校

追究の視点を生かした「問い」の例

- ・どのように広がっているのだろうか
- ・なぜこの場所に集まっているのだろうか
- ・なぜ地域によって気候が異なるのだろうか
- ・いつどんな理由で始まったのだろうか
- ・どのように変わってきたのだろうか
- ・なぜ変わらずに続いているのだろうか
- ・どのような工夫や努力があるのだろうか
- ・どのようなつながりがあるのだろうか
- ・なぜ○○と○○の協力が必要なのだろうか

中・地理的分野

- 位置や分布に関わる視点
緯度・経度、方位、距離、領域、等質地域、地方的特殊性
- 場所に関わる視点
地形、気候、植生、景観
- 人間と自然の相互依存関係に関わる視点
生活様式、衣食住、自然条件
- 空間的相互依存作用に関わる視点
機能地域、都市圏、社会条件
- 地域に関わる視点
地域性、過疎・過密、先進・発展途上

中・歴史的分野

- 年代の基本に関わる視点
時期、年代、時代区分
- 諸事象の推移や変化に関わる視点
変化、発展、時代の転換
- 諸事象の特色に関わる視点
相連、共通性、時代の特色
- 事象相互の関連に関わる視点
原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義

中・公民的分野

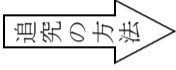
- 現代社会を捉える視点
対立と合意、効率と公正、影響、意義、働き、機能、多様性
- 社会に見られる課題や問題の解決策を構想する視点
継承、創造、責任、役割、選択、配分、向上、整備、保全、保護、権利、義務、発展、維持、保障、推進、形成、国際協調、貢献、熱意、持続可能

社会科における思考力、判断力

◎社会的事象の見方や考え方の基礎

- ・位置や空間的な広がり
- ・時期や空間的経過
- ・事象相互、立場相互の関係
- ・比較・分類したり総合しして
- ・国民（人々の）生活と関連付けて

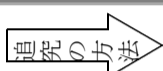
- ・社会的事象の特色や意味を多角的に考察する力
- ・社会に見られる課題について、自分たちにできることを選択・判断する力



◎社会的事象の地理的な見方や考え方

- ・位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し
- ・地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結びつき、人間の営みなどと関連付けて

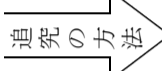
- ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力
- ・地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力



◎社会的事象の歴史的な見方や考え方

- ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
- ・比較して相連や共通性を明確にして
- ・原因と結果を関連付けて

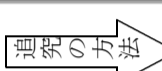
- ・時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力
- ・歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力



◎現代社会を捉える見方や考え方

- ・個人と社会との関係に着目して社会的事象を見出し
- ・それらの事象を現代の社会生活と関連付けて

- ・社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力
- ・現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力



習得する知識、概念の例

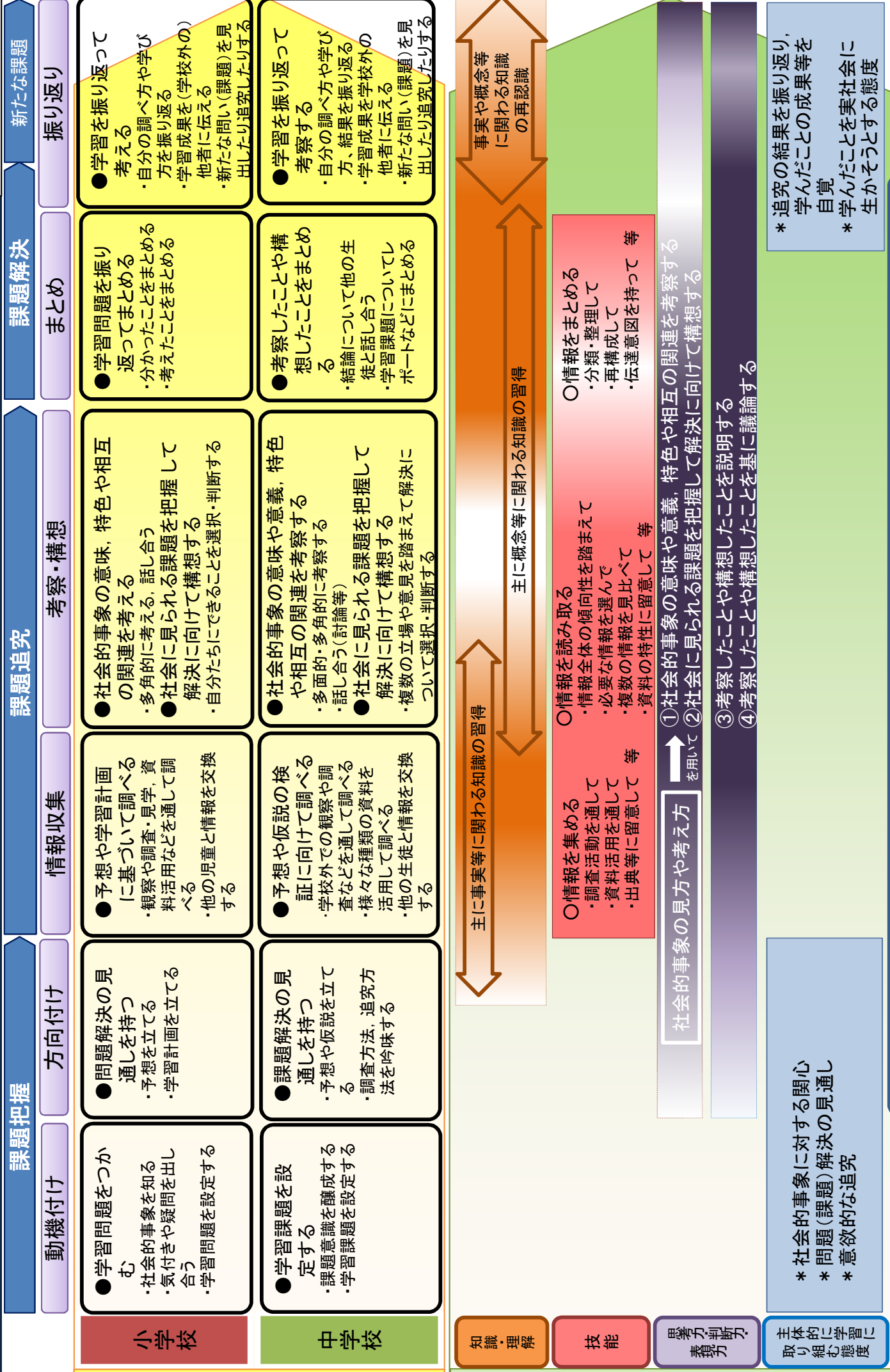
- ・組立工場を中心に部品工場が集まり盛んな地域を形成している
- ・駅の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まる
- ・国土の地理的位置や地形、台風などの自然条件によって気候は異なる
- ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった。
- ・農作業は機械化により生産効率を向上させた
- ・伝統芸能はが技や道具が多くの人々に継承され今に至っている
- ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対処によって守られている
- ・食料生産は私たちの食生活を支える役割を果たしている
- ・政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある
- ・世界の人々と共に生きるには、文化や考え方の違いを認め合い理解し合うことが大切である

- ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること
(具体例：明石市は大阪市の西にあり、その市立天文科学館は日本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にあります)
- ・特定の事象は、地球の表面において特定の場所に広がること
(具体例：アマゾン川流域には、広大な熱帯雨林が広がっています)
- ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと
(具体例：岡山県の南部は、なだらかか平野が広がり、一年を通して温暖な気候の地域です)
- ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること
(具体例：平野の乏しい日本では、その傾斜地を段々畑や棚田にするなどして利用してききました)
- ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと
(具体例：東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に届ける近郊農業が古くから発展してきました)
- ・空間的な広がりは、固有の性格を持ち、変容すること
(具体例：中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっています)

- ・今も世界に広がるいくつかの宗教は、数千年前に古代からの文明地域の都市を中心に起こった
- ・南北朝の争乱や戦国の動乱を経て室町幕府の統一的支配が弱まり、大名による領国支配と民衆による自治的結合が進んだ
- ・近世は、江戸幕府等の強大な力を基盤に安定した全国支配体制が形成され、産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった
- ・東アジア各地の国家統一の動きをうけて、中央集権的な法体制をめぐり各国家の建設が進められた
- ・モンゴル襲来のあと御家人の経済的困窮と武家社会における専制的支配への不満が強まり、鎌倉幕府は倒壊に向かっていた

- ・私たちのものの見方や考え方、判断、価値観などが文化によって影響を受けている
- ・人間は社会的存在であり、よりよい社会生活を営んでいくために生きまよや取り決めが必要である
- ・人間の生活の維持・向上を図ることに経済活動の意義がある
- ・合意の妥当性を判断する際に、無黙を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である
- ・財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である
- ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、技術的な協力などが大切である

社会科における学習プロセスの例（たたき台案）



小学校

中学校

主な学習過程の例

能力等の育成と主な評価場面

■ 学習過程全体について留意すべき点
 ・各プロセスは例示であり、上例に限定されるものではないこと
 ・学習活動のつながりと学びの広がり（深い学び、対話的な学び、主体的な学び）を意図した、単元の構成の工夫等が望まれること

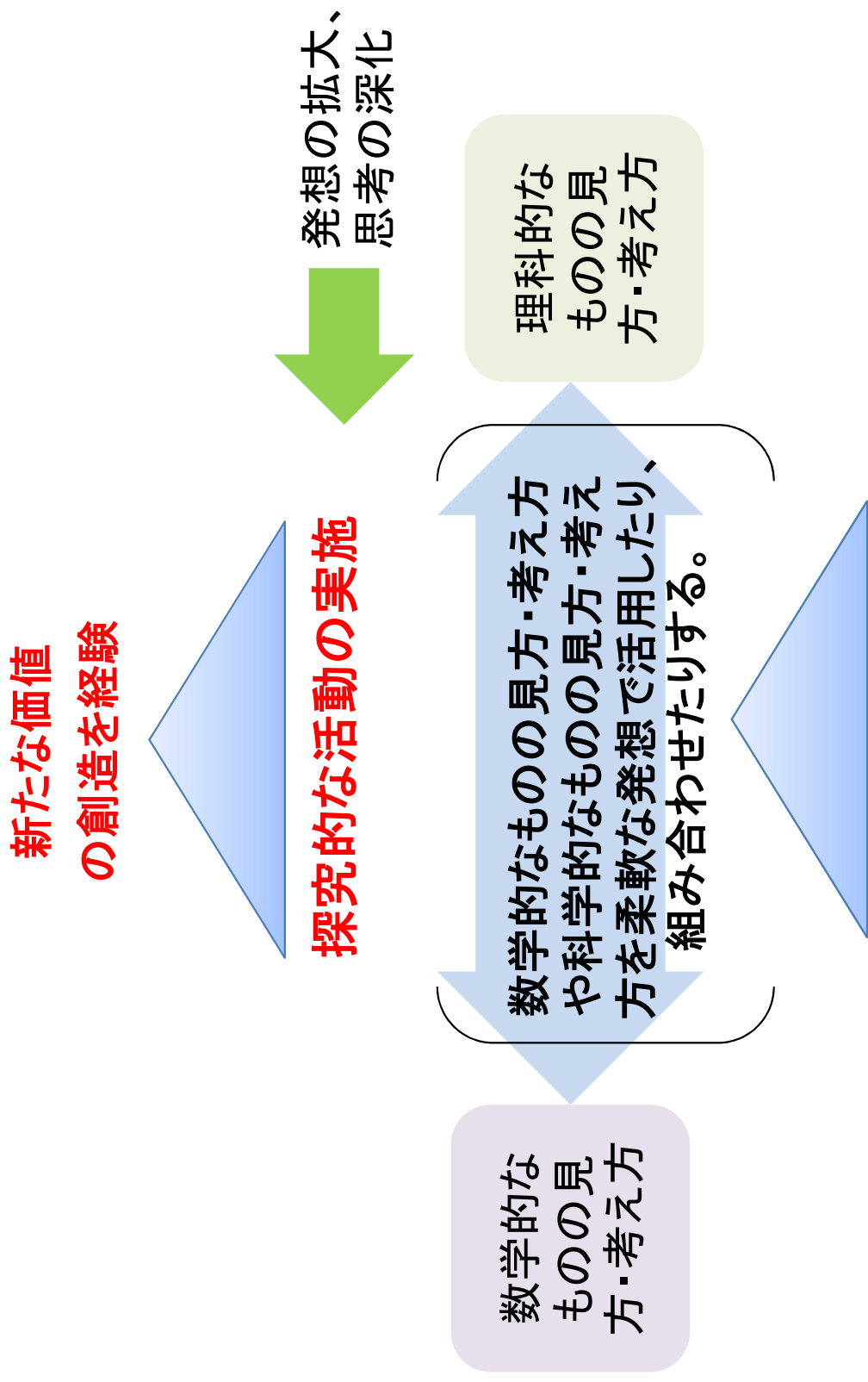
高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の在り方 に関する特別チーム検討事項

1. 数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う数理探究(仮称)で育成すべき資質・能力について
 - ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性など)
2. 数理探究(仮称)の内容等について
 - ・ 数理探究(仮称)の目標、内容、探究的な活動の対象領域等
3. 数理探究(仮称)の指導方法及び指導に当たっての留意事項等について
4. 資質・能力の育成のために重視すべき数理探究(仮称)の評価の在り方について
5. 数理探究(仮称)の質を高め、普及させるための方策

数理探究（仮称）の基本原理

- ①教科・科目の枠にとらわれない自由な視点で
事象をとらえ（総合性）、
- ②数学的なものの見方・考え方や科学的なもの
の見方・考え方を柔軟な発想で活用したり、組
み合わせたらしながら（融合性）、
- ③探究的な学習を行うことを通じて（手立て）
- ④新たな価値の創造に向けて粘り強く挑戦する
力の基礎を培う（挑戦性、アイデアの創発）

数理探究(仮称)の基本原理のイメージ



教科・科目の枠にとらわれずに自由な発想で事象をとらえる。



次の課題解決のプロセス

※なお、課題解決の過程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では、そのプロセスの一部のみを扱ってもよい。

数理探究(仮称)の構造について～資質・能力～

<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方や等(知っていること・できることをどう使うか)</p>	<p>情意、態度等に 関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 探究的な活動を自ら遂行するための知識・技能 例：研究テーマの設定方法 先行研究の調査方法 研究計画の立案方法 研究の進め方 研究成果のまとめ方 研究成果の発表方法 についての知識・技能 ● 既に有している知識・技能の活用及び探究を通じて得る内容に関する知識や探究に関する技能 ● 探究を通して新しい知見を得る意義についての認識。 ● 研究倫理（生命倫理を含む。）についての基本的な理解 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科・科目の枠にとらわれない自由な視点で事象をとらえ、科学的・数学的な課題として設定することができる力 ● 科学的なものの見方・考え方や数学的なものの見方・考え方を柔軟な発想で活用したり、組み合わせたりできる力 ● 多様な価値観や感性を有する人々と議論等を積極的に行い、それを基に多面的に思考する力 ● 探究的な学習を通じて課題解決を実現するための能力 例：観察・実験デザイン力 構想力 実証的に考察する力 論理的に考察する力 分析的に考察する力 統合的に考察する力 発表・表現力 	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な事象に対して知的好奇心を持って科学的・数学的にとらえようとする態度 ● 科学的、数学的課題や事象に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度 ● 見通しを立てたり、振り返ったりするなど、内省的な態度 ● 新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度 ● 主体的・自律的に探究を行っていくために必要な研究に対する倫理的な態度

探究を深める段階の考え方

- 基礎で身に付けた資質・能力を活用して自ら課題を設定し、探究活動を行う。
- 課題に関する内容に関する知識や課題を解決するための技能を自ら身につけ、より深い探究活動を志向させる(共通ではない学び)。
- 探究に当たっては、質を高めるため大学・企業等の外部機関を積極的に活用する。
- 実験や分析自体の成否より、試行錯誤し、失敗のリスクも引き受けながら自分たちでやりきる過程を重視する。

探究を深める段階

大学・企業等からの支援

基礎で学んだことを用いて、自ら課題を設定し、探究活動を実施する。

校内・校外において探究の成果を発表する。

プロセスの例

探究の手法について学ぶ

教員の指導のもと、研究の進め方や分析の手法を考え、選択した課題等の研究を実施する

研究倫理について学ぶ

校内等で成果を発表する

基礎の修得段階

基礎の修得段階の必要性

- 自ら探究プロセスを回し、質の高い深い探究活動を行うためには、そのために必要な資質・能力をあらかじめ身に付けておくことが必要。
- 新たな価値の創造に向けて挑戦することの意義等について理解を深めさせることで、主体的に探究に取り組む態度を身につけさせることが必要。
- 研究倫理や生命倫理についての基本的な知識を身につけさせることが必要。

数理探究(仮称)の構造について～システム全体のイメージ～

実施に際し必要
と考えられる諸
条件

自ら探究のプ
ロセスを実施
できる生徒を
想定(必要に
応じ高校間で
連携)

生徒が取り組
む探究活動に
必要な経費

基本的な観
察・実験設備
を具備

学校全体とし
ての指導体制

大学・企業等
との連携協力
体制

高等学校における評価の視点(考えられる例)

探究に
係る知
識・技能

事象から課
題を見出し
設定する力

探究のプロ
セスを主体
的に行う力

他者との議論等
を通じて多面的
に思考する力

果敢に
挑戦す
る態度

高大接続の場面
における適切な
評価

大学での学び

- ・本質を見抜き、批判的にとらえる思考力と感覚
- ・複雑な事象からでも必要な情報を抽出し、定量化できる力
- ・複雑な対象の理解や課題解決に向けた高度な認識力、分析力、判断力
- ・既知の事柄を一般化したり類推したりして、新しい局面を切り開く力
- ・多面的な視点から考察し、総合的な判断を下す力
- ・物事を簡潔に表現し、的確に説明する力
- ・未知の問題に積極的に立ち向かい、冷静に分析し対処していく態度

(出典)日本学術会議「大学教育の分野別質保障のための教育課程編成上の参照基準」
数理科学分野、生物学分野、地球惑星科学分野

探究を深める段階

～生徒自ら実施～

自由な発想
で事象をとら
える

探究的な活
動の実施

新たな価値
の創造を経
験

教員等の指
導のもと、課
題を設定

探究的な活
動の実施

探究の成果
をまとめる
経験

～教員主導で実施～

基礎の修得段階

参考：数理探究（仮称）の構造について～基本的な考え方～

「高等学校教育においては、スーパーサイエンスハイスクールにおける取組等を踏まえつつ、生徒の興味や進路に応じて、数学科の枠を越えた科学的なテーマに徹底的に向き合い考え抜く力を育成するため、大学入学者選抜の改革や「大学入学者希望者学力評価テスト（仮称）」に向けた動きも踏まえつつ、**数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う新たな選択科目「数理探究（仮称）」**の設置を検討することが求められる。」
（平成27年8月教育課程企画特別部会「論点整理」）

○教育課程企画特別部会「論点整理」
「教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何がで
きるようになるのか」という観点から、育成すべき資
質・能力を整理する必要がある。その上で、整理され
た資質・能力を育成するために「何を学ぶのか」とい
う、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのよ
うに学ぶのか」という、子供たちの具体的な学びの姿
を考えながら構成していく必要がある。」

○平成27年8月高大接続システム改革会議「中
間まとめ」
「大学入学に向けた学びを、知識や解法パター
ンの単なる暗記・適用などの受動的なものから、学
んだ知識や技能を統合しながら**問題の発見・解決**
に取り組む、より能動的なものへと改革する。」
「（「数理探究（仮称）」に対応する科目を実施す
る。」

○平成26年5月科学技術・学術審議
会学術分科会「学術研究の推進方
策に関する総合的な審議につい
て」中間報告
「学術研究による知の創出が基盤で
あり、それが充実して初めて経済的
価値ないし社会的・公共的価値等を
含むイノベーションが可能となる。」

- ①学術研究は「国力の源」といえる。現代の学術研究には、「**挑戦性**」「**総合性**」「**融合性**」「**国際性**」が特に強く要請されている。
- ②異分野融合は、かつての分野を合算したものではなく、まったく新しい知の体系的構造に発展するものである。これは、結果を見通したものでなく、交流と連携、その拡大と新しい問題の発見から、さらなる交流と連携が生まれ、総合化と融合とがポトムアップ的に起こることを示している。

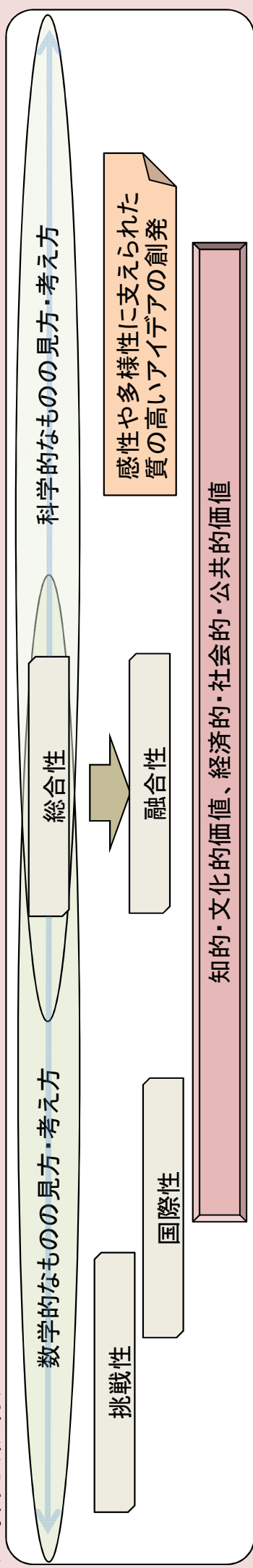
SSHの取組例

約20か国から参加校を集め、科学
交流（課題研究の口頭発表、ポス
ターセッション、ワークショップ等）を
実施。（学校法人立命館 立命館高等学校）

校内だけで完結するのではなく、大学や
科学関連企業等と連携した「発展型課
題研究」を行い、探究活動の質的向上を
図る。（山形県立米沢興譲館高等学校）

探究型融合教科「グローバルサイエ
ンス」を設置し、理科4分野を融合し
た科目「GS自然科学」や「GS課題研
究」等を実施。（京都府立桃山高等学校）

数理探究（仮称）



・科目の固有の視点として「**挑戦性**」「**総合性**」「**融合性**」「**国際性**」が「**感性や多様性に支えられた質の高いアイデアの創発**」などが考えられるのではないかと
・「**挑戦性**」「**総合性**」「**融合性**」「**国際性**」「**感性や多様性に支えられた質の高いアイデア**」といった観点から**資質・能力**を育てるための**具体的な手立て**として、ど
のようなカリキュラム構造（目標、内容構成、学習対象及びこれらにより育まれる**資質・能力**）を考えるべきか。

算数・数学ワーキンググループにおける検討事項

1. 算数・数学を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・算数・数学を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた算数・数学において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・算数科・数学科において育成すべき資質能力と指導内容との関係について
 - ・統計的な内容等の充実について

2. アクティブ・ラーニング（※）の三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

高等学校基礎学力
テスト(仮称)



【高等学校】

- ◎ 事象を数理化し、論理的に考察し、本質を明らかにするなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。
- ② 事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断したり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- それぞれの内容を生活と関連付けたり、生徒の疑問を取り上げたりするなど生徒の数学学習に対する関心や意欲を高める。
- 学習の過程を振り返り、本質を明らかにしたり学習内容を整理し直したりして、自ら見いだした問題を解決する活動を充実する。

【中学校】

- ◎ 事象を数理化し、論理的に考察するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。
- ② 事象を数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 数学のよさを実感し、数学を生活や学習に活用して考えたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- 問題解決に必要な情報を生徒自らが集めたり選択したりしたり、帰納的に考えることなどから自ら決まりを見付ける活動、見いだした決まりを既習の内容を生かして演繹的に説明する活動を充実する。
- 既習の内容を振り返って関連を図ったり、新たに学んだ内容を用いると、どのようなことができるようになったのかなどについて明らかにしたりする活動を充実する。



全国学力・学習状況調査

【小学校】

- ◎ 算数の学習を生活や学習に活用するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理するための知識・技能を身に付ける。
- ② 日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。
- ③ 数学のよさに気づき、算数の学習を生活や学習に活用したり、学習を振り返ってよりよく問題解決したりする態度を養う。
- 事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し処理したり、振り返ったりする学習活動を充実する。
- 具体物、図、数、式、表やグラフ相互の関連を図り、問題解決する学習活動を充実する。



【幼児教育】(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- 生活や遊びを通じて、自分たちに関係の深い数量、長さや速さ、図形の特徴などに関心をもち、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。

資質・能力の三つの柱に沿った、
資質・能力の育成のために*

小・中・高等学校を通じて算数・数学科において育成すべき資質・能力の整理(案)

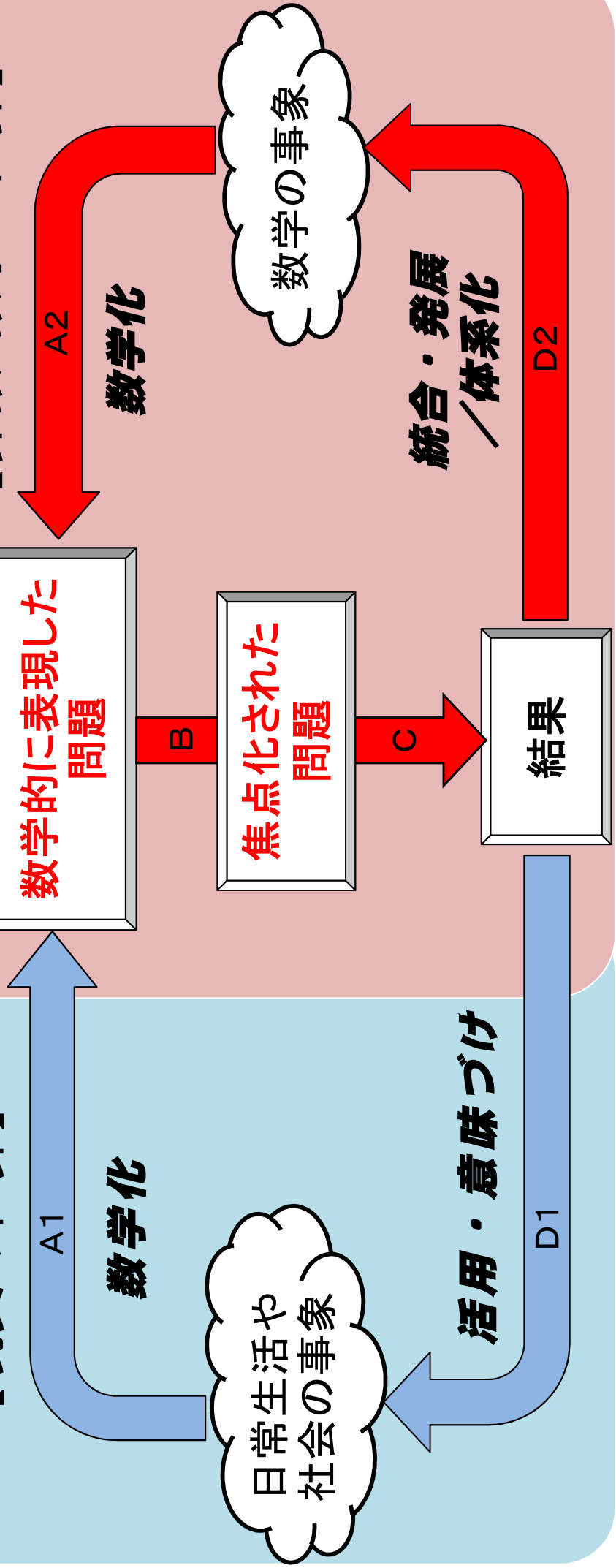
	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等	資質・能力の育成のために* 重視すべき学習過程の例*
数理探究 (仮称) 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な活動を自ら遂行するための知識・技能 既に有している知識・技能の活用及び探究を通じて得る内容に関する知識や探究に関する技能 探究を通じて新しい知見を得る意義についての認識 研究倫理(生命倫理を含む)に ついての基本的な理解 	<ul style="list-style-type: none"> 教科・科目の枠にとらわれない自由な視点で事象をとらえ、科学的・数学的な課題として設定することができる力 科学的なもの、見方・考え方や数学的なものの見方・考え方を柔軟な発想で活用したり、組み合わせたりできる力 多様な価値観や感性を有する人々との議論等を積極的にに行い、それを基に多面的に思考する力 探究的な学習を通じて課題解決を実現するための能力 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事象に対して知的好奇心を持って科学的・数学的にとらえようとする態度 科学的、数学的課題や事象に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度 見通しを立てたり、振り返ったりするなど、内省的な態度 新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度 主体的・自律的に探究を行っていくために必要な倫理的な態度 	<ul style="list-style-type: none"> 自然事象に対する気付き 情報収集と分類 課題の設定 仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の処理 考察、推論 表現・伝達
数学 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解 事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりするための知識・技能 数学的な問題解決に必要な知識 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を数学的に考察する力 既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考える力 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方や考え方のよさ、数学の用語や記号のよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを認識し、事象や問題の解決に数学を積極的に活用して、数学的論拠に基づいて判断する態度 問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度 多様な考えを生かし、よりよく問題解決する態度 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問や問いの発生 問題の設定 問題の理解 計画の実行、結果の検討 振り返り 新たな疑問や問い、推測などの発生
数学 中学校	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解 事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりするための知識・技能 数学的な問題解決に必要な知識 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力 既習の内容を基にして、数量や図形などの性質を見いだし、統合的・発展的に考える力 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方や考え方のよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度 問題解決などにおいて、粘り強く考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度 多様な考えを認め、よりよく問題解決する態度 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問や問いの発生 問題の設定 問題の理解 計画の実行、結果の検討 振り返り 新たな疑問や問い、推測などの発生
算数 小学校	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについて基礎的な概念や性質などの理解 日常の事象を数理的に処理するために必要な知識・技能 数学的な問題解決に必要な知識 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考える力 基礎的な数量や図形の性質や計算の仕方を見いだし、既習の内容と結びつけ統合的に考えたり、そのことを基に発展的に考えたりする力 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、数学的な見方や考え方や数理的な処理のよさに気付く 算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする態度 数学的に表現・処理したことを振り返り、批判的に検討しようとする態度 問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとし、抽象的に表現されたことを具体的に表現しようとし、表現されたことをより一般的に表現しようとするなど、多面的に考えようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の事象の数学化による問題設定 解決の見通し、ねらいの明確化 解決の実行 解決したことの検討 解決過程や結果の振り返り(概念の深まり、統合・発展)

* 学習過程については、自立的に、ときに協働的に行い、それぞれに主体的に取り組めるようにする。

算数・数学の問題発見・解決のプロセス

【現実の世界】

【算数・数学の世界】



日常生活や社会の事象を数理的に捉え、
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統一的・発展的に考え、
問題を解決することができる。

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

※各場面で、言語活動を充実

※これらのプロセスは、自立的にときに協働的に行い、それぞれに主体的に取り組めるようにする。

※それぞれのプロセスを振り返り、評価・改善することができるようにする。

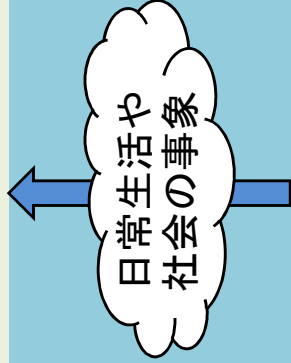
算数・数学における問題発見・解決のプロセスと育成すべき資質・能力

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、
問題を解決することができる。

- A1 日常生活や社会の問題を数理的に捉えることについて
- 事象の数量等に着眼して数学的な問題を見いだす力
 - 事象の特徴を捉えて数学的な表現を用いて表現する力(事象を数学化する力)



- D1 解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすることについて
- 得られた結果を元の事象に戻してその意味を考える力
 - 様々な事象に活用する力

数学的に表現した問題

- B 数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てることについて
- 数学的な問題の本質を見いだす力(洞察する力)
 - 数学的な問題を解決するための見通しを立てる力(構想力)

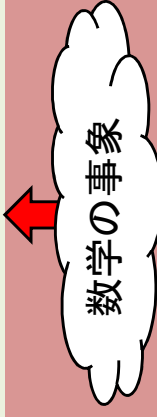
焦点化された問題

- C 焦点化された問題を解決することについて
- 目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理する力
 - 数学的な見方や考え方を基に、的確かつ能率的に処理する力
 - 論理的に推論する力(帰納、類推、演繹)

結果

- E 数学的な表現を用いて、人々と交流し合うことについて
- 数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりする力
 - 目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて説明する力

- A2 数学の事象における問題を数学的に捉えることについて
- 数学の事象から問題を見いだす力
 - 事象の特徴を捉え、数学化する力
 - 得られた結果を基に拡張・一般化する力



- D2 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすることについて
- 数学的な見方や考え方のよさを見いだす力

- 得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていく力
- 見いだした事柄を既習の知識と結びつけ、概念を広げたり深めたりする力
- 統合的・発展的に考える力

思考・判断

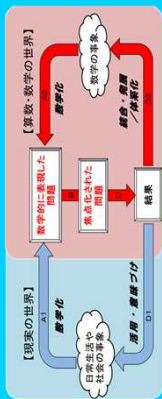
表現

人間性

※これらの力は必ずしもこの位置のみに位置づくわけではない

- F 学習に向かう力、態度について
- 過程や結果を吟味し、評価・改善する態度
 - 多面的に考え、粘り強く問題の発見や解決に取り組む態度

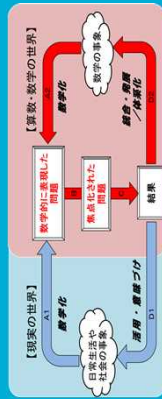
教科横断の問題解決プロセス



活用

汎用的な概念、
見方や考え方等
の獲得

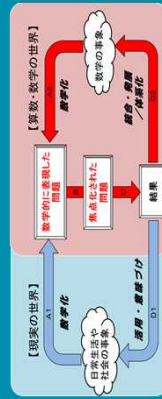
他領域・他分野の問題の解決プロセス



活用

領域・分野横断
の概念、
見方や考え方等
の獲得

類似問題や発展問題の解決プロセス

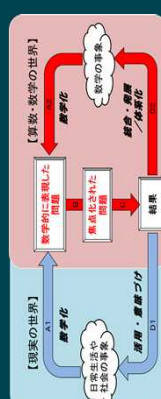


活用

洗練された
領域固有の概念、
見方や考え方等
の獲得

活用

素朴な問題の解決プロセス



概念、
見方や考え方等
の獲得

数学的・体系的に体系的に探究

算数・数学の
問題発見・解決の
広がりと
汎用的な見方や
考え方等の
獲得過程

発展的な問題発見